

令和7年度 施設関係者評価（公開保育）報告

令和8年3月10日

認定こども園土気中央幼稚園

公益社団法人千葉市幼稚園協会主催の教育研究会（公開保育）の仕組みを活用し、公開保育の折に参観者より、当日の保育を始めとする園についての評価を受けた。

評価方法

11月12日開催した公開保育を参観してもらい、市内幼稚園の教諭等からは当日の保育および園について自由記述により評価を受けた。学校関係者及び保育関係施設長からは口頭で聞き取りを行った。

自由記述による評価はそれぞれの意見を「子どもたちの生活習慣・態度・意欲に関すること」「保育者の態度、援助に関すること」「活動の工夫、環境構成に関すること」「施設設備に関すること」とそれ以外の意見に分け、表にまとめた。単なる感想と捉えられるものは除外した。学校関係者等については口頭での聞き取りだったため、文章化できる範囲で列挙した。

参観者

学校関係者	幼稚園団体関係者	保育関係施設長	市内幼稚園教諭等
4名	2名	2名	49名

計57名

「子どもたちの生活習慣・態度・意欲に関すること」	
35件	<p>代表的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもたちが穏やか・落ち着いて活動に取り組んでいた。</li> <li>● 朝の活動、当番活動などで子どもが主体となって行動する場面が多く見られた。</li> <li>● 掃除やごみ捨て、椅子のしまい方、活動の様子から日々の保育の積み重ねの成果を感じた。等</li> </ul>
「保育者の態度、援助に関すること」	
40件	<p>代表的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 先生が穏やかで丁寧なかかわりをしていた。</li> <li>● 子ども一人一人の声を拾いながら活動を進めていた。</li> <li>● 職員の人数が手厚かった。等</li> </ul>
「活動の工夫、環境構成に関すること」	
19件	<p>代表的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 絵カードなどを使い、説明や自分がやることを視覚的に分かりやすく掲示していた。</li> <li>● （縦割り保育でのリズム遊び）他学年が同じリズム遊びをおこなうことで様々な相乗効果を感じた。等</li> </ul>
「施設設備に関すること」	
9件	<p>代表的な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 園庭・園舎が広く、他のクラスを見渡せる設計が良い。等</li> </ul>

#### その他の意見

- ピアノのスピードが全学年同じだった。
- 体験したり触れ合った題材ではなかったので一方的に与えている感じがした。
- ピアノの音が大きいほうが良い。

#### 近隣施設・学校関係者からの意見

- 外部講師による体育指導が楽しそうで素晴らしかった。
- 芝生の中庭など、子どもにとって良い環境が整っているように感じた
- 年少児のうちから自ら着替えができていることに驚いた。
- 朝の会を子どもたちが行っていることに驚いた。
- 年長のこの時期（11月）にしっかりと先生の話聞いていて感動した。

### 分析と反省

多数の幼稚園教諭・学校関係者から意見を受けたことで、当園の職員や子どもたちが当たり前のこととして営んでいる生活を客観的に把握することができた。

#### 1. 基本的な生活習慣の大切さ

##### (ア) 着替え・掃除・整頓

- ① 当園では制服を着用する年少児から、年度当初より少しずつ登園時の制服から体操服への着替えを取り組んでいる。ズボン・スカートの脱ぎ着は全身を使う動作であるし、ブラウスのボタン止めは手先の発達につながる。“いつかはできること”ではあるが、これをおおむね1日2回、小学校入学までに約3年間に繰り返す経験は園生活の一部に「着替え」がある当園ならではの考える。
- ② 掃除はカリキュラム上年度末の大掃除が大きな柱となるが、製作遊びで出たゴミの片づけ等、日常保育の一部として様々なタイミングで行っている。

##### (イ) 当番・班長活動

- ① 朝の出欠報告などを行う当番活動は満三歳児の3学期から、各機の班長として様々なお手伝いをする班長活動は年少の2学期からカリキュラムを立てて行っており、週に1回～月1回程度期待と責任をもって取り組む当番・班長活動の積み重ねが年長児の自立した様子につながっていると考えられる。また、これは小学校で取り組む係活動などにもつながる活動でもある。

#### 2. 日々の生活を通して行う積み重ねの大切さ

##### (ア) 良い生活習慣の積み重ね

- ① 1. で挙げた基本的な生活習慣を入園当初から、園生活の一部として体系的に子どもたちに繰り返し経験する機会を与えることが園としてできていたことで、「子どもたちの生活習慣・態度・意欲に関すること」の中で子どもたちが主体的に園生活を営んでいることへの意見が多かったと考えられる。そ

の他、細かい部分では椅子のしまい方、参観者への挨拶なども日々の生活習慣の積み重ねが公開保育当日の子どもたちの姿にも見られた。

(イ) 製作、運動遊び等の積み重ね

- ① 生活習慣の積み重ねと同様に、絵画指導はクレヨンの持ち方を未就園児教室のカリキュラムに組み込んでおり、絵の具は満三歳児から筆を使わない導入活動から計画的に進めている。当園絵画講師の助言のもと、絵画や製作においてもその基礎として体力・体幹を身に付けることが必須との考えから普段の外遊びに加え、令和6年度からリズム遊びを本格的に取り入れた。これらの相乗的な積み重ねの大切さも、改めて評価から再確認することができた。
- ② 当日の体育遊び指導や英語は満3歳児から、科学遊びは様々な科学的概念を理解し始める年長より行っている。これらの正課活動も長年契約している専門講師との連携のもと定期的、繰り返しの活動として定着している。

3. 保育者の資質の大切さ

- (ア) 今回の評価においては、「保育者の態度、援助に関すること」に言及する意見が最も多かった。このことから、専門知識を持つ各関係者は保育者の資質を最も重視していると考えられる。その中で声掛けの優しさや、個々の園児への援助を挙げる評価が多く比較的温厚な声掛けを行えていることが分かった。保育者の資質に関連する「活動の工夫、環境構成に関すること」も19件あり、保育活動自体に様々な工夫があった旨の意見を得た。

4. 今後の課題

- (ア) 今回の公開保育では「自分なりの表現する力を高める。」をテーマに、絵画やリズム遊びなど普段から行っている保育の公開保育へ向けた取り組みを、年度当初から計画を組み実行した。しかし園固有の課題を挙げ、課題解決に向けた取り組みの評価を受けるところまでは至らなかった。一方で学校関係者からの聞き取りで、保育者や子どもたちが幼稚園生活の一部として当たり前のように行ってきた着替えや朝・帰りの活動、当番活動などについて高い評価を得た。これは昨今の義務教育を取り巻く家庭環境の変化や、当園で行ってきた保育が小学校生活で展開される当番活動などの基礎につながっていると考えられることからの評価だと捉えた。
- (イ) 現在注目されている幼小連携や保育の質を鑑みれば、今回評価を受けた部分についてその意義等を再確認し、今後も体系的に保育を続けていくためにカリキュラムの見直しが必要である。さらには学校関係者や世間一般に、園で行っている保育、またその意義についてわかりやすく周知していく必要があると考える。